

## 会議録

会議の名称	令和7年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会		
開催日時	令和7年11月20日（木） 午後6時30分 開会 午後8時18分 閉会		
開催場所	茨木市立上中条青少年センター 3階会議室		
出席者	三川俊樹（部会長） 福井斉 野村円 行田和弘 石田勉 濱園明洋 浦野祐美子 ほっとけん！アワード発表者1人	【計8人】	
欠席者	山田眞弘 村林隆志 梶西学 平家雅史 正尾直也		
事務局職員	吉田教育総務部理事 吉崎社会教育振興課長 村上社会教育振興課参事 稲角社会教育振興課指導育成係長 石井社会教育振興課指導主事 三好社会教育振興課主査	【計6人】	
開催形態	公開		
議題(案件)	付託事項の検討 • 青少年健全育成運動重点目標の取組状況 • ほっとけん！アワードの選出 • 青少年育成の現状報告と課題の共有 • ほっとけん！アワードの採点項目の改正		

議事の経過	
発言者	議題（案件）・発言内容・決定事項
事務局	【開会】
吉田理事	【あいさつ】
事務局	委員出席状況について報告。議事進行を三川部会長に交代。
三川部会長	付託事項の検討についての1点目、「青少年健全育成運動重点目標の取組状況」を議題とする。この件については前回の専門部会からの継続案件となっており、事務局からの説明を求める。
事務局	<p>資料1 「令和7年度茨木市青少年育成のための「重点目標と取組状況」(案)」は、専門部会での検討結果を冊子にまとめたものであり、青少年問題協議会に報告した後、市内の各青少年健全育成団体や小・中学校等に配布している。</p> <p>目次のとおり、青少年健全育成運動重点目標の解説や取組状況、青少年団体の活動状況、「ほっとけん！アワード」、青少年対象の行事実績、育成者対象の行事、青少年問題協議会の役割、構成団体や機関の紹介をした冊子となっている。</p> <p>前回の専門部会では、時点校正中の冊子を資料として示した。今回は、冊子全体の構成や前年度からの変更点、時点校正中の内容について示したいと考えている。</p> <p>1ページでは、茨木市青少年健全育成運動重点目標「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、市内の青少年を対象とした行事で重点目標を意識し、取り組んでいただくことを目的に、行事の計画時と実施後に自己点検アンケートを記入していただくこと、さらに、この目標を踏まえ、学校、家庭、地域、行政機関が具体的な取組を行い、青少年の健全育成を推進することについて呼びかけをしている。</p> <p>2ページでは、学校・家庭・地域、ネット世界で「子どもの発するSOSのサイン」の種類を記載している。</p> <p>3ページでは、子どものSOSのサインに対する大人の接し方や心がけ、見守りの必要性について記載している。</p> <p>4ページでは、青少年のインターネット利用時間の増加及びSNSに起因する事案の被害児童数の推移をグラフで示し、最新の令和6年度のデータに更新している。</p>

5ページから6ページでは、青少年に関する相談、連絡機関を紹介している。各相談機関の役割や担当は異なるが、青少年のSOSを広くキャッチできるように、様々な機関を掲載している。連絡先等については、事務局にて分かる範囲で更新しているが、関係機関に最新の情報を確認予定である。

7ページから11ページにかけては、青少年健全育成関係団体の行事に関する自己点検アンケートの集計結果や活動状況について記載している。令和7年度における青少年健全育成補助事業は136行事となっている。アンケート項目への回答の傾向は、要約として、9ページの「アンケートのまとめ」に記載している。

10ページでは、コロナ禍の前後での行事計画数と、屋内・屋外での行事の計画状況を示している。

11ページでは、種目別の行事実施件数を掲載している。

12ページから15ページでは「ほっとけん！アワード」の紹介をしている。この後の議事でもある、「ほっとけん！アワード」の選出結果により、大賞や奨励賞の行事内容を掲載する。また、今年度からエントリー賞を創設しており、その該当となった2団体を15ページに掲載している。これらの好事例を掲載し、地域での行事の参考にしていただく。

16ページは「ほっとけん！アワード」の実施要領、17ページは審査基準である。

18ページから21ページにかけては、令和6年度分の青少年健全育成事業補助金の対象行事を掲載している。

22ページから25ページにかけては、令和7年度の行事計画と実績を掲載している。冊子の完成版の作成に向け、時点校正をしていく。

26ページは青少年健全育成研修会の報告を掲載している。現時点では前年の内容を参考に掲載しており、今年度の研修後に内容を更新する。

27ページから30ページでは、青少年問題協議会の役割、関係図、条例、直近2年分の協議内容を掲載している。

31ページには令和7年度の青少年問題協議会委員名簿を掲載している。

32ページから33ページでは、青少年健全育成の各団体の活動紹介を掲載しており、関係団体や市民に周知するためのものとなっている。記載内容については、令和6年度版の内容を転記しているが、今後、内容を更新する予定である。

34ページでは、青少年問題協議会関係の啓発事業を掲載している。

資料2は、青少年健全育成重点目標リーフレット（案）である。これは、学校を通じて家庭に配布するほか、青少年育成関係者に配布し、年度によって内容も更新している。背景やタイトルの色について年度の区別をつけやすいように変更する。

また、相談機関について、内容の確認と更新を行い、中面に掲載している写真も変更する。

三川部会長	ここまで内容について、意見や質問はあるか。
福井委員	どこに通院すればよいか紹介してほしいという相談をよく受ける。頼るところが口コミサイトでは通院が続かないケースも多い。行政として医療機関の紹介は難しいか。生成AI等を用いて問診表を作り、その結果で受けるべき医療機関がわかるような取り組みをしている市もあると聞く。
三川部会長	学校教育の方では、こどもたちの状況に応じ医療機関の受診・診断があり、継続的に活用できるような機関を紹介している。社会教育の方で何かご承知のことがあるか。
事務局	当青少年問題協議会の刊行物は、青少年のSOSをキャッチして相談できる機関を中心に掲載しており、医療機関は掲載していない。市としては、医療機関の分かるものを発行させていただいている。
三川部会長	リーフレットについて、色合いが変わらぬか。
事務局	重点目標を浸透いただくということで、大きなレイアウト変更はしないが、同じ色合だと区別がつかなくなるので簡単な変更はさせていただく。
三川部会長	小・中学校、高等学校等、児童生徒を通して家庭に届けるような形だと認識しているが、どれぐらいの部数になるのか。
事務局	市内の小・中学校、高校、及び関係機関への配布や予備で約3万8000部になる。
三川部会長	次に、付託事項の検討の2点目「ほっとけん！アワード」の選出について議題とする。 各協議会から推薦された青少年健全育成行事について、団体代表者からのプレゼンテーションの後、本日ご出席の委員の皆様に審査をいただき、大賞「ほっとけん！アワード」及び奨励賞の決定を行う。進行を事務局にお願いする。
事務局	資料3「令和7年度ほっとけん！アワードエントリー行事」に記載している4つの協議会、小学校区こども会育成連絡協議会、小学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年指導員会から行事の推薦があった。小学校区青少年会育成会からは推薦がなかった。今回の専門部会では、この4つの行事に対し、大賞1行事、奨励賞3行事を選定するため、委員の皆様に採点をお願いしたい。 ここで、エントリー賞について紹介する。エントリー賞は、各協議会で推

薦に至らなかった行事のうち、各協議会の審査順位の上位2つまでとなる。今回は、小学校区校こ連から1団体、中学校区青健協から1団体が該当している。行事の概要は資料1の15ページに掲載している。2つの行事を簡単に紹介する。

穂積小学校区こども会育成連絡協議会「校区百人一首大会（百人一首カルタ競技大会への参加と日々の取り組み）」は、仲間と切磋琢磨し感謝と思いやりを持ちながら安心できる居場所を作ることを目指し実施された。勝ち負けにこだわりすぎず、相手を大切にする気持ちを持って、練習や大会参加の心構えを共有された。小学校区内のこども会が合同で練習し、異学年交流ができ、カルタを通じ友達関係を構築できた。自治会と調整し練習場の確保やPRを行った。百人一首大会では好成績を収め、口コミで活動状況が広がり新たなメンバーも加わった。

豊川中学校区青少年健全育成運動協議会の「とよかわフェスタ2024」では、実行委員会に小学生が参加し、「ゴミを減らそうキャンペーン」の企画をされた。フェスタのステージでは中学生が司会を務め、小・中・高校生が出店やステージ発表をし、小・中学生が募金活動を行った。青少年が呼びかけを行い、ゴミ分別や募金に協力してくれる方が多く、地域の団体と連携しながらを深める場となった。準備段階から青少年が大人と協力し、大人は青少年と伴走する形でサポートし、「顔の見える関係づくり」を進めた。

続いてほっとけんアワードの審査・採点を進める。

会場にて発表に参加いただくのは三島中学校区青少年健全育成運動協議会で、ご都合がつかなかった天王小学校区こども会育成連絡協議会、沢池小学校区青少年健全育成運動協議会、西陵中学校区青少年指導員会については事務局から説明を行う。

発表から採点の流れについて、各団体よりエントリーシートに基づいて5分で発表をいただいた後、質疑応答の時間を取り、委員により採点をいただく。この流れを4つの行事に対して繰り返す。なお、採点の際、立候補団体の属する協議会の代表委員は、他の協議会に属する団体の行事のみ採点をいただく。

後日、事務局にて集計を行い、結果を報告する。

発表順は、1番目が小学校区こども会育成連絡協議会、

2番目が小学校区青少年健全育成運動協議会、

3番目が中学校区青少年健全育成運動協議会

4番目が中学校区青少年指導員会とする。

それでは、天王小学校区こども会育成連絡協議会の「天子連カーニバル」について事務局から説明する。

当行事はものづくりやゲームを行うイベントで、防災について考えることもテーマとされている。第42回と歴史の長い行事となっている。

目的は、こどもたちが遊びやもの作り体験を通じ防災を考えるきっかけ

事務局  
(天王小学校  
区校こ連)

	<p>になり、保護者、地域の方、学生ボランティアと顔見知りの関係になることとされている。</p> <p>重点目標を意識した取組のうち「青少年との相談」については、低学年から高学年まで楽しめる活動や、見学だけも可能なこと、防災は怖くないものが良いということ、お土産があると嬉しいことなど、意見を聞かれている。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」について、幼児・低学年から高学年まで取り組める工作や、中・高学年には記憶に残る体験となるように希望の取り入れをされた。</p> <p>「青少年の役割」について、地区文化祭に向けたペットボトルランタン制作、ソフトボール・キックベースのスポーツ体験をすることとされた。</p> <p>「青少年への指導と助言」について、時間割・グループ分け・各活動の説明等は大人が対応するが、こどもたちの間で困ったことがあれば見守り、こどもたちで解決できるようアドバイスを伝えられた。</p> <p>アピールポイントとしては、ソフトボール・キックベースを通じ地域の方との交流やスポーツ体験をしてもらえたこと、ペットボトルランタンは防災アイテムにもなり身近な物で作れると伝えられたこと、こどもたちが体験したことを家庭や友達に伝え、防災への興味が深まったことなどを上げられている。</p> <p>「行事の苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」については、幼児から高学年のこどもたちが一緒に楽しめる活動を考えることは難しいが毎年の反省をフィードバックしながら考えていること、ランタン制作では低学年はシールや絵を描くことを体験し、中・高学年は洗剤を用いた光の拡散実験を体験してもらったことなどを上げられている。</p> <p>これらのことから、幅広い年齢層のこどもが楽しめる工夫をし、防災の視点を持った取り組みをされた。</p>
事務局	<p>今の説明について、質問はあるか。無ければ採点を願う。</p> <p>次に、沢池小学校区青少年健全育成運動協議会の「親子のつどい」について事務局から説明する。</p>
事務局 (沢池小学校 区青健協)	<p>この行事は、防災訓練やゲーム、模擬店などを行うイベントで、第38回と歴史の長い行事となっている。</p> <p>目的は、行事を通じて地域住民が集い協力し、日頃は接点の少ないこどもや住民同士のつながりを深めることとされている。また、自主防災会、福祉委員会と協力して防災訓練を行い、防災意識向上も図られている。</p> <p>重点目標を意識した取組のうち「青少年との相談」について、企画は大人で進めたが、青少年の意見を聞かれた。相談は多くなかったとのことだが、当日も青少年の意見や反応を観察し、今後参考にできるよう心がけた。</p> <p>「青少年の希望取り入れ」について、積極的な取り入れは限定的だったが、行事に参加してもらいながら青少年の関心やニーズを把握した。</p>

	<p>「青少年の役割」について、ゲームコーナーなど限られた範囲で大人のサポートを受けながらの活動が中心だった。実際に参加することで地域行事に関わる経験を積んでもらえた。</p> <p>「青少年への指導と助言」について、活動の進め方や安全面の必要最低限の指導や助言を行われている。基本的なポイントを伝え、安心して活動できるよう配慮された。</p> <p>大人主体で行事を企画されているが、次年度に向けた子どもの意見の取り入れなどを検討されている。</p> <p>アピールポイントとして、地域協議会、コミセン、自主防災会、福祉委員会など地域の多様な団体が連携し、延べ 900 人の参加者を集めて実施したことや、感染対策を徹底しつつ飲食やゲームコーナーなどの催しを行い、多世代が交流しながら地域の絆と防災意識を高めたことを上げられている。</p> <p>「行事の苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」について、多様な団体が関わるためスケジュール調整や役割分担に工夫が必要だったことや、感染対策を講じながら参加者が安心して楽しめる環境をつくることに苦労された。防災訓練ではスタンプラリー形式を取り入れ、参加意欲を高める工夫を行い、多くの住民が防災意識を持つきっかけとなった。</p>
事務局	<p>今の説明について、質問はあるか。無ければ採点を願う。</p> <p>次に、三島中学校区青少年健全育成運動協議会の「夢・笑顔・愛フェス2024」について説明を求める。</p>
三島中学校 区青健協 発表者	<p>当行事は継続期間が 2 回目で、昨年は約 1,000 名が参加した。当団体では、過去のコロナ前には舞台発表や出店のフェスを開催していた。コロナ後に行事を再開するにあたり、今後高い確率で発生すると言われる南海トラフ地震のことも考え、災害発生時に地域住民が何ができるかを学び、安心して支えあえる地域づくりを目的に、防災・減災をテーマにした当フェスを 2023 年から始めた。</p> <p>「青少年との相談」に関してだが、三島中学校では総合学習の中で防災教育が行われており、青健協のメンバーもそこに関わらせていただいた。その防災教育の中で、災害時に中学生にできること、防災グッズ、避難所運営などについて一緒に検討した。</p> <p>「青少年の希望の取り入れ」では、中学生の各学年に、フェスで何をするのか検討してもらい、当日の運営に反映させた。1 年生はインフォメーションセンターとして来場者の案内、非常食配布、スタンプラリーなどを担当した。2 年生は水消火器訓練や煙体験、簡易担架作成などの防災訓練を担当した。3 年生は小学生や幼児向けに手作りのストラックアウトやボーリングなどのゲームの提供を担当した。前日準備では、自主防災会の方から防災用具の使い方や組み立て方を生徒に指導してもらった。</p> <p>アピールポイントとして、当行事に係る生徒たちからのアンケートがあ</p>

	<p>る。生徒からは、「地域の人たちと交流することの大切さや楽ししさを学んだ」「地域の人と交流し、いざというとき助け合える街にしたい」という前向きな意見が多く寄せられた。</p> <p>苦労した点として、皆さん忙しい中、各団体や先生方の時間調整が大変だったことがあるが、会議を授業参観の後に行うなど工夫して対応した。</p> <p>今年は地区自主防災会との防災訓練も兼ねてフェスを開催する予定がある。東日本大震災で被災地となった地域の元学校長を招いて講演を聞いた後、生徒と地域の大人が一緒に災害にどう立ち向かうかを考えるワークショップを行う。ちょうど今年の3年生が1年生のときに始めた行事であり、3回目となる今年度に形を作つて締めくくりたいと考えている。</p>
事務局	今の説明について、質問はあるか。
野村委員	とても楽しい1日を大人からこどもたちまで一緒に過ごせる企画だと感じた。総合学習の際に大人が入って一緒に考えることが、大人が気づいて声をかけあう関係づくりの一歩になると思った。実際に授業に参加され、災害時に中学生ができる事を一緒に検討されたということだが、具体的にどのような意見が中学生から出て、それがどのように「青少年の役割」や「夢・笑顔・愛フェス」といった企画に繋がったのかお聞きしたい。
三島中学校 区青健協 発表者	当青健協メンバーは、中学校1年生の自主防災研修の中で、避難所運営に必要な物や近くの店で簡単に購入できる物はどんなものか、皆で考えようと話をしていた。授業では、生徒全員がタブレットを使いインターネットで情報を検索し、検索結果はエクセルにまとめ Teams で共有していた。私自身は避難所運営の経験がなかったので、どんな物が必要なのかは分からなかったが、「これがあれば便利かも」と意見を出し合い、ディスカウントストアや100均で防災に必要な物と一緒に見た。バッテリーや簡易トイレが必要だろう一緒に考えながら進めた。そこで購入したものを、行事の避難所運営コーナーの中で、「100均で購入できる防災物」という形で展示した。
行田委員	非常食はどういうものを配布したのか。
三島中学校 区青健協 発表者	市危機管理課で賞味期限が比較的近づいているアルファ化米や水をいただき、配布した。
事務局	他に質問はあるか。無ければ採点を願う。 次に、西陵中学校区青少年指導員会の「放課後カフェ（レインボーカフェ）」について事務局から説明する。

事務局 (西陵中学校 区青指会)	<p>当行事は、中学校の生徒が先生や地域の大人と交流するカフェを行うもので、ほぼ毎月開催されている。前年は、1回あたり65人から206人が参加され、この数は増加傾向にある。</p> <p>目的は、放課後のひと時に交流カフェを開き、縦や横のつながりではない斜めの関係を築き、地域で生徒達を見守り、安心して学校生活が送れるようにサポートすることとされている。</p> <p>重点目標を意識した取組のうち「青少年との相談」について、シートには特に相談していないと記載されているが、カフェの中で地域の大人や先生が生徒の話を聞いていることが、相談の場の一つと捉えられる。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」について、教室に入りにくい生徒が通うステップルームへ、出張カフェとして飲み物を届けている。</p> <p>「青少年の役割」について、椅子を並べたり、飲み物を配ったりの手伝いや片付けをされており、また、友達や先生、地域の大人とゲームや会話をしながら人間関係を広げていくことも生徒の役割とされている。</p> <p>「青少年への指導と助言」について、一緒にゲームや会話をする中でアドバイスをしたり、周囲の大人たちが見守っていること、相談しても大丈夫ということを伝えている。</p> <p>以上のことから、カフェ事業を通じて青少年と関わることにより、地域の大人と中学校生徒の交流をされ、大人による見守りをされている。</p> <p>アピールポイントとして、カフェを継続することで生徒からの認知度が上がり、楽しみとの声が多く聞こえてくること、普段と違った生徒の顔が見られると先生に好評であること、他の中学校でも同様のカフェを始めたところが出てきており、他地域への波及が見られることを上げられている。</p> <p>「行事の苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」について、青少年指導員のメンバーだけでは運営人数が揃わない事が悩みで、有志やP T Aの方に来てもらえるシステムを作りたいこと、費用面が十分ではなく、地域他団体に協力をお願いしたいことを上げられている。</p>
野村委員	<p>今日お見えでない団体について、2点お伺いしたいことがある。1点目は天王小学校区こども会育成連絡協議会の「天子連カーニバル」で、低学年から高学年まで楽しめる活動として体を動かす遊びと工作が選ばれたとのこと。その中で、ソフトボールとキックベース体験が選ばれた理由をお聞きしたい。これらは地域で意見を言いやすい立場の人々が関わることが多い活動であるため、もっと皆が楽しめるものとして、ボッチャや体育館ができるスポーツなど他の選択肢があるようだ。</p> <p>2点目は西陵中学校区青少年指導員会の「レインボーカフェ」で、これは他の中学校でも増えてきており、生徒にとってありがたい空間だと思う。ただし、課題として費用面や道具が不足している点が挙げられる。そこで、学校図書館から本をブックドランナーで持ってきて、ミニ図書館を作るというアイデアをお考えいただければと思う。</p>

浦野委員	ソフトやキックについては、茨木だけでなく三島大会もある。その関係もあり、様々な地域で昔からずっと続いているという面がある。
行田委員	ソフトやキックは地域でも熱心に取り組まれている。ニュースポーツには、人を集めのもん難しく、体育委員も関わって流行らせようと努力しているが、なかなか浸透しないことがある。
事務局	他に質問はあるか、無ければ採点を願う。ここで発表者は退席となる。集計結果については後日、事務局よりメール等で委員の皆様に報告する。
三川部会長	次に、付託事項の検討についての3点目、「青少年育成の現状報告と課題の共有」を議題とする。各委員からそれぞれの現場等における青少年育成の現状について報告いただき、課題の共有を図りたい。では、委員より発言を求める。
福井委員	発達症について、自分の子を心配した保護者から、発達検査を受けられる場所や、その結果を踏まえてどうしたらよいかといった相談を受けることが増えている。先ほどのリーフレットについて、教育全般ではなく発達に関する相談として表現を変えるだけでもニーズが反映され、困っている保護者により届きやすくなると考える。
浦野委員	こども会の課題は加入者の減少であり、何とか増やしていくかと考えている。親がこども会を知らなかつたり、こどもの頃に加入していなかつたことも原因の一つだと思う。こども会は楽しいもので、学校と異なる活動ができるなどをアピールし、加入者の増加に努めたい。
濱園委員	「こども会の役をやりたくない」「まだ子どもが小さい」などの理由で役員を引き受ける人が減り、こども会がなくなっていくパターンが続いている。加入者を増やすのは難しい状況だ。 話が変わるが、青少年指導員として心配しているのは、インターネットを介した闇バイトの問題だ。関わってしまうと、身元を知られ脅されることに繋がり、犯罪に引き込まれてしまう。学校でもネットに関する講演があり、講師から、ネットで問題が起これば近くの大人に相談するようアドバイスされた。しかし、親がその危険性を理解していないことがあり、こどもにスマホを与えるだけで済ませてしまっている。最近、中学校の運動会を見に行った際、親の席がこどもから離れていることに気づいた。従来はこどもの後ろに親が座っていたが、学校でスマホ使用を禁止しているにも関わらず、親がこどもにスマホを渡し写真を撮らせることが問題となつたようだ。こどもの教育よりも、親のモラルやリテラシーの方がより重要と感じた。

石田委員	<p>小学校区青健協でも、活動の維持が課題となっている。メンバーが固定化している状況であり、PTAが解散した校区では地域からの協力を得られにくいこともある。地域活動を負担に感じる人が多い中で、人を入れ替えて組織を循環させていくというのは難しいだろう。各青健協で活動を維持していくことうという意思は感じるが、その気持ちだけを頼っても、なかなかうまくいかないのではないかと思う。</p>
行田委員	<p>当校区では「豊川フェスタ」で「ほっとけん！アワード」にエントリーしたが、開かれた中学校ということを大切にしている。中学校区内の小学校は児童数が少なく、PTAも何とか会長を出していただいている。最近ではPTAやこども会が任意団体として認識され、「任意だから参加しなくてもいい」という考えが広がっているようだが、公立の学校活動には皆で参加して支え合うことが大切だと思う。私がPTA会長をしていた頃、新1年生が入学する際に「みんなで支え合おう」と呼びかけて加入をお願いした。個人情報の管理などの問題もあったが、それでもこどもたちを見守るためということを前面に出して、アピールしていくのが大事だ。当校区では、幼稚園や保護者の協力も得て、地域のネットワークを作っているが、こどもたちを地域全体で支えていくことが重要だと感じている。</p>
三川部会長	<p>「豊川フェスタ」には多くの人が来られたようだ。</p>
行田委員	<p>ネット時代なのか、卒業生が「豊川フェスタ」があることを知り、友達同士で誘い合って来てくれるのがメインになっていた。また、フェスタでは小さなこどもたちにも楽しんでほしいと思い、こどもが飛び跳ねて遊ぶような遊具を近くの業者から借りている。エントリー賞の賞金も遊具を借りる費用に充てようと考えている。</p>
野村委員	<p>PTAの課題も先ほどのこども会と同様、人数が少なくなってきたことである。PTAをやめる方や市PTA協議会から抜ける団体も増えている。PTAの必要性をどのように浸透させていくかが鍵になるが、今年は、例年の市PTA大会を講演会として開催した。テーマは「性教育」で、自分のこどもと性教育について家庭でどう話せばいいか、またインターネットの過剰な情報の中でこどもたちをどう守るかという内容である。開催方法もオンラインとオンデマンドを併用し、1週間程度引き続き見られる形にした。これにより、PTAが子育ての困りごとを解決してくれる支援の場であると感じてもらえたたらと思っている。PTAの動きが鈍くなっている現状に課題を感じており、閉塞感もあるが、改善しようと動いているところである。</p>

石田委員	P T Aの必要性は、我々や現在P T Aに参加する世代が考える必要のあることだが、同時にP T Aの価値の発信をどこかでしてもらえないかと思う。現在の風潮では、P T Aは任意団体ということで、新聞などでもそのように扱われている。本当にそれでいいのかという疑問がある。文科省など教育界のトップから、P T Aは大事だという発言を聞くこともない。立場のある人からP T Aの価値を見直す話があってもよさそうに思う。
濱園委員	P T Aが本当に必要だと認識されなければ、その価値を感じてもらえない。小学校P T Aがなくなった時、通学路に車が入ってきそうな場所があり、ポールを立ててもらいたかった。昔はP T Aがそのような調整をしていたが、P T Aがないためどこにお願いすればよいかわからず、最終的に青健協にお願いすることになった。P T Aがあることで円滑に進んでいる部分が多いのに、それが理解されていない。あるP T A役員の方に「なぜ役員をやっていたのか？」と聞いたところ、「自己満足」と言われた。私たちの時代は、こどもたちの笑顔を見たい、仲良くさせたいという思いで活動していたのだが、少し寂しく感じる。
石田委員	どこがやるべきかわからないが、もう一度P T Aの価値を再認識しようという発信が必要だと思う。もちろんP T Aからの発信が望ましいが、それ以外のところからもサポートがあってもいい。
三川部会長	P T Aは、先生と一緒に子どもの成長や発達を見守るという思いで存続してきた経緯がある。その中で大きなメリットがあるはずだが、現在ではデメリットが目立ってしまっているのかもしれない。
石田委員	目立ったデメリットと言えば、個人の負担感だろう。公徳心を皆が持つべきとまでは言わないが、個人の負担感だけで済ませていいのかは考えなければならない。その発信を、個人ではなく、新聞や教育でイニシアティブを持っている先生方にしていただかないと、議論にならない。この場で解決できる場ではないですが、モヤモヤしている。
福井委員	保育士の離職数の調査をしているが、園内で解決できることを急に行政に連絡してしまい、園内が混乱し、保護者同士が対立することもある。結局そのしわ寄せが、現場の保育士に及ぶというケースが多い。こうした問題は、小・中学校にも見られるのではないか。その意味で、P T Aが最初の受け皿として機能していたのではないかと感じる。P T Aの価値を再認識し必要性を改めて感じている。
三川部会長	青少年健全育成のための会議だが、社会教育の大きなテーマにもなっていると思う。事務局から何か考えはあるか。

事務局	<p>貴重な意見をいただいた。行政としては、PTAが任意団体であるため、積極的な発信が難しいところもある。それを踏まえた上で、できる限りの支援を行っていきたいと考えている。今後とも見守っていただきたい。</p>
三川部会長	<p>次に、付託事項の検討の4点目「ほっとけん！アワード」の改正案について、事務局より説明を求める。</p>
事務局	<p>資料4は、「ほっとけん！アワード」の採点表の改正案となる。</p> <p>現在、アワードの審査につき、重点目標に関すること、青少年との関わり、総合判断など、それぞれの内容に基づき採点している。地域の青少年団体からは、青少年と接触して相談をしたり企画を練ったりする機会が作りにくく、相談や希望の取り入れが難しいという意見がある。そのため、エントリーに躊躇されたり、採点を受けることに抵抗があると聞いている。</p> <p>また、「評価／配点」につき、前回の専門部会にて、「やや良くない」という内容は表記としてどうだろうかと意見があった。</p> <p>そのため、採点表につき、次年度に向け改正を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「青少年との相談」では、「青少年と直接の相談がなくても、青少年が参加しやすいよう工夫されている」という審査基準を追加。</li> <li>・「青少年の希望を取り入れたか」では、「行事の企画や実施の参考にするため、青少年からフィードバックを得ている」という審査基準を追加。</li> <li>・「評価／配点」では、「やや良くない」を「工夫が必要」に修正。</li> <li>・各項目の「工夫が必要」という評価につき、配点を0点から2点に修正。採点の対象項目数は変わらず、合計は現行と同じ100点となる。</li> </ul> <p>当アワードには、エントリーを通じ、青少年団体に自らの活動の自己評価や点検を行ってもらいたいという目的がある。活動の振り返りのプロセスそのものが重要で、採点基準にとらわれることなく多くの団体にエントリーいただき、その過程で行事の自己点検や団体間で好事例を共有する機会にしていただきたい。</p> <p>この改正につき、今回の専門部会でのご意見も踏まえ検討し、結果を青少年問題協議会の本体会議で報告する。</p> <p>本体の会議で承認されれば、令和8年度から、新たな基準に基づき「ほっとけん！アワード」の審査を進める。その際、各団体へ、審査の解釈を拡大したことや、エントリーを積極的にお願いしたいことを周知するとともに、各協議会での採点の際にも変更点に留意いただきたい。</p>
三川部会長	<p>積極的な取組をしている団体がエントリーしやすいよう、青少年との相談や希望の取り入れにつき、少し幅広い観点から評価項目を追記したということである。</p> <p>説明があった内容について、意見や質問はあるか。</p>

濱園委員	「青少年との相談がなくても青少年が参加しやすいように工夫されている」という追加項目があるが、今回のアワードでも各団体が工夫をして子どもの意見を取り入れている。青少年健全育成団体の目的は、子どもと接したり連携することであり、アワードに楽にエントリーできる項目を追加するのはどうかと思う。実際に工夫して上手くできている団体もあるため、この項目の追加は必要ないと感じる。
福井委員	「青少年と直接の相談がなくても」という文言が必要かどうか。「青少年が参加しやすいように工夫している」という表現で十分ではないか。
石田委員	希望を取り入れるにはそもそも相談が必要だと思うが「青少年との相談」と、「青少年の希望を取り入れる」の違いは何か。
濱園委員	「こういうものはどうか」という話をする段階が相談か。
石田委員	フェーズが違うものか。
浦野委員	相談は「計画時から相談する」、希望の取り入れは「計画が決まった時に内容を取り入れる」という意味かと。
石田委員	それでは、「青少年が参加しやすいよう工夫されている」と「行事の企画や実施の参考にするため、青少年からフィードバックを得ている」という2項目の配置を入れ替えてはどうか。小学校区青健協の会長連絡会では、出席の団体から、今年こどもたちの意見を聞けていないが来年に向け意見を聞いているという声があった。そこで、意見を次年度に反映するならば、次年度は計画段階から意見を取り入れたことになるだろうと話をした。団体から、その考え方ならアワードにエントリーできそうだということになった。このフィードバックの件は、企画段階に取り入れる考えになると思う。
三川部会長	希望の取り入れの部分は、そのことを踏まえて追記されていると思う。今年度終了後に何があったかという意見を聞き、次年度に生かすためのフィードバックとして理解している。
石田委員	そのフィードバックは、聞いた意見を次の企画の段階で反映するものとして、「青少年との相談」の審査内容に入れればどうか。
三川部会長	案にある「青少年が参加しやすいよう工夫されている」と「行事の企画や実施の参考にするため、青少年からフィードバックを得ている」を入れ替えるというイメージか。

行田委員	当校区の豊川フェスタに関して述べたい。小学生が提案したごみ箱の取り組みについては学校のSDGs活動の一環で、どんなごみ箱を作ると正しく捨ててくれるか、子どもに考えさせる取り組みだった。行事の実行委員会は直接子どもと相談したわけではなく、事務局の教員が子どもと調整し進められた。このような形は直接的な相談でなく、間接的な相談になると思うが、アワードの審査内容に当てはまるのではないか。そのような話だと解釈している。
三川部会長	原案に対して工夫を加える提案があったが、事務局から意見はあるか。
事務局	団体の会議に出席する中で、様々な意見が出ている。濱園委員がおっしゃったように、現状の基準に合わせて取り組むべきという意見もあるが、事務局としては、アワードへのエントリーを通じて団体の行事を振り返る機会をなるべく作っていただきたいと考えている。その振り返りを通じ、子ども向けの行事内容を工夫し、それが地域での青少年健全育成に繋がることを目指している。いただいた意見を反映しつつ進めたい。
三川部会長	それでは、いただいたご意見を踏まえ、再度ご検討いただくということでおろしいか。
福井委員	多くの行事は重点目標を踏まえて実施されていると思うが、「重点目標に沿って行事を実施したか」の項目は、3段階でなく4段階評価で良いのではないか。評価は「良い」「やや良い」「普通」「工夫が必要」という形で十分かと思う。ポイントは、実施できているかどうかではなく、重点目標にどの程度沿っているかだと考える。
行田委員	これは団体が様々なレベルの行事を出される前提で作られていると思う。実際、アワードにエントリーされる団体は十分に工夫をされているが、本来は全ての団体にエントリーしてほしい。そこで、様々な行事からエントリーされたときに、多少差をつけるための評価項目として設定しているのではないか
福井委員	納得できた。
石田委員	本当は、おっしゃるように大前提としてそれぞれの団体がエントリーしてくれるとありがたい。
三川部会長	各団体が自己評価・自己点検をしていただきたいというのが、補助金に自己点検アンケートを取り入れている視点でもある。このアワードを通じて、

	ぜひまたアピールしていただけるようにしていきたい。
行田委員	フェスタやふるさとまつりなどのイベントで、こどもたちも楽しめるように努力しているものの、実際には大人たちだけが楽しんでしまい、こどもは舞台に参加せずグラウンドに集まるだけだったことも過去にあった。アンケートやアワードは、これからも地域を支えてくれる子どものための、地域行事の活動基準を設定しているという面があると思う。
三川部会長	事務局から何かあるか。
事務局	貴重なご意見をいただいた。なお、団体には行事の計画時と実施後に自己点検アンケートをお願いしている。アワードの審査項目はそのアンケートと連動しており、大きく変更するのは少し難しい面がある。例えば、アワードの「重点目標に沿って行事実施をしたか」という項目は、アンケートの「沿っていた」「概ね沿っていた」「あまり・全く沿っていなかった」という評価と連動している。採点表を大きく変更するとアンケートの内容と相違がでてくるため、その点も踏まえて検討したい。
三川部会長	付託事項の検討については、本日いただいた意見を次回の青少年問題協議会で報告する。異議はないか。
	< 異議なし >
事務局	令和7年度茨木市青少年問題協議会は、令和8年1月29日に開催予定としている。決定次第、改めて通知する。
三川部会長	以上をもって、令和7年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会を終了する。